

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月1日

城壁は碧玉で造られ、都は混じりけのないガラスに似た純金でできていた。-黙示録
21:18

金は神の本性のすべてを告げています。またガラスは完全に透明とされた純粋性を語っています。後者の直喩を採用する場合、未来における純粋性はガラスで象徴されていますが、では、現在の純粋性は水によるのでしょうか？水は不純物によって容易に濁ってしまうものですが、ガラスには一切の不純物が侵入できません。今日の私たちの純粋性は容易に変化してしまうものです。しかしその日の純粋性は決して変わることがありません。私たちのうちに植え込まれた「純粋性」は純金です。それは疑いの余地がありません。ああ、しかし私たちは容易に金くずが混じり込むものですから、私たちのうちにおける神の御業はそれを取り除くこととなります。十字架によってキリストは居雑物を除かれました。私たちのものであったそれらをすべてご自身の死によって裁きの下に置かれたのです。私たちの内においてもっとも大切にすることが、それを、すなわち居雑物を生み出すのです。私たちが神の永遠の都の純金の中に置かれる前に、それらは放棄される必要があるのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月2日

父よ、御名があがめられますようにーヨハネ12:28

私たちにはキリストの多大な教えが与えられておりますが、ここは主がご自分を現されたとても貴重かつ親密な一場面です。教えの節は26節で終わっていますが、ここでは人の子ご自身が輝き出しておられます。「父よ、わたしは何を申すべきでしょうか。父よ、わたしをこの時から救いたまえ、と語るべきでしょうか」。主はご自分のガートを完全におろされ、ご自分をすべてさらけ出されました。しかし主は軽率に語ることはされませんでした。御父に語られる時でさえも、人々に対するとまったく同様に、十字架が主を支配していました。「この故にこそ、わたしはこの時に直面しているのです。」わたしは「わたしを救いたまえ」とは申しません。ただ、申し上げます、「御名があがめられますように！」と。

心が問題を抱えるとき、注意深く語りましょう。主がなされたように。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月3日

この方は、銀を精練し、これをきよめる者として座に着き、レビの子らをきよめ、彼らを金のように、銀のように純粹にする。-マラキ3:3

あらゆる価値という価値が崩壊するとき、私たちは何を評価したらよいのでしょうか。金屑のような人間的な賢さやこの世の資源、あるいは神が造られた金や銀、それともキリストによる贖いでしょうか？ 今日、いわゆるキリスト教界の多くの事柄があまりにも安っぽいものと墮しています。しかし霊的価値に至る近道といったものはありません。説教、祈り、証しなど、これらのことは難しいことに見えてはいますが、これらの事柄は長い時間と多くの血と神聖な訓練などの代価を払うゆえに価値のあるものです。神の「誉ある器」とは、御霊が自分自身に教えて下さることを待つ人であり、自分が何も知らないことを認めることを恥としない人です。そしてついに事の真実が試される日が到来します。一時間ほどの要点を外した混乱した中でなされる説教、その中に神を見ることができないのであれば、ほとんど意味のないものです。そのような時には、彼が語ることに従って神が彼を取り去るかもしれないと、聴衆にも分かるのです。彼自身の内側深くで触れたことでなければ、そのような説教は他の人に対しても何も力を持たないのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月4日

私たちはあなたの神々に仕えず、あなたが立てた金の像を拜むこともしません。-ダニエル3:18

イスラエルの隆盛と没落の問題は、真の礼拝をするのか偶像礼拝をするのかの問題でした。ヒゼキヤ王の時のリバイバルはまず第一に礼拝のリバイバルでした。ゼルバベルの時も同じです。捕囚は厳しい裁きでしたが、もっともイスラエル人にとって厳しい事態は自分たちの礼拝を禁じられたことでした。神がご自身の分をお受けになることができない場合、その民も彼らの分を失いました。もっとも過酷な裁きは神に仕えることを禁止されたことでした。

「私たちの神は焼き尽くす火です」。私たちの内なるものは焼き尽くされますし、そう願います。私はインド人の兄弟が礼拝において、顔を地に伏せるとき、大きな感動を覚えます。神の臨在の中における「敬意と畏れ」が、私たちの内側にあるべきです。しかし、これらが私たちのうちに存し、私たちの心が神と正しい関係にあれば、神の子である私たちは、決して焼き付くことはありません。これこそがダニエルの三人の友人の経験だったのでした。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月5日

しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。-ヨハネ20:31

私はかつて南中国のある大学で集会を持ちました。そこで、かつての私の同級生で、その心理学の教授になっている旧友と再会しました。集会を始める前に彼の元を訪ね、キリストのことを語りました。しばし丁寧に耳を傾けてくれた後、彼は笑って言いました、「まあ、私に説教することは無駄だよ。私は神の存在など信じていないのだから」と。

ところが、翌日、驚くべきことに、最初の集会において立ち上がり、救いの経験を証したのは、他にもないその教授自身だったのです！集会後、彼の元に行き、たずねました、「どういう経緯だったのですか」。彼は答えました、「あなたが去った後、私はあなたが置いていった聖書を手にしたのです。そして読んでみると、ヨハネ1章の単語が目飛び込んできました。『その日』、『翌日』、『その後』と。私は思いました、この筆者は自分が語っていることを知っている。彼はそれらをすべて目撃したのです。それは日記のようです。そこで考えたのです。とにかく神がおられるとしたらどうだろうか？神を信じないことは愚かなことではないか。あなたは、疑っていてもいいから、神に祈ってみなさいと言いました。そこで私は膝をかがめ、祈ったのです。私は何を求めたのかは分かりませんが、とにかく祈ると、神がいますことを知ったのです。どのようにしてかは説明できません。ただそれが分かったのです！そしてその目撃者であるヨハネの言葉が思い浮かびました。神はいますゆえに、そして私は考えました、それゆえにイエスこそが神の独り子であり得る、とすると私は救われたのです！」。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月6日

ついで、ダビデは言った。「獅子や、熊の爪から私を救い出してくださった主は、あのペリシテ人の手からも私を救い出してくださいます。」-1サムエル17:37

ダビデはベツレヘムにおいて王として油を注がれました。しかし、すぐに日常生活の領域に戻り、そこにおける主の証しを経験するのです。彼は普通の人々の群れに戻ったのであり、特別な訓練学校に行ったわけではありません。サウルの使いがダビデを見出したのは、彼が「羊といる」時でした。そしてダビデの出番となり、ゴリアテと対決する時に用いた武具は、すでに彼が使い慣れていた武器でした。サウルの兜と剣と鎧について、彼は「使い慣れていない」として、それをすべて脱ぎ去りました。代わって、牧羊のための石投げと石を取り、「この全集団も、主が剣や槍を使わずに救うことを知るであろう」と宣言しました。

立場自体には何らの権威ありません。単なる地位は何らの霊的力ももたらしません。あなたは公の場で敵に向かう前に、密かな所で敵に向かう必要があるのです。出て行って公の場で勝利する前に、まず家において神の霊と調和する必要があります。これが私たちすべての者たちに開かれている訓練の学校なのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月7日

彼がペヌエルを通り過ぎたころ、太陽は彼の上に上ったが、彼はそのものためにびっこをひいていた。-創世記32:31

ここペニエルにおいて、神と顔と顔を合わせたヤコブは、新しい名前イスラエルを得ます。しかし記事は依然として彼をヤコブと称するのです！これには理由があります。真理は、もちろん誰も一夜にして変えられることはないからです。ヤコブ自身も何かの大きいなる変化を感じたわけではありません。彼はただ自分が神と出会ったこと、また自分が永遠にびっこにされたことを知ったのでした。

聖句を用いて自分の経験を説明することはもちろん正当なことです。神が特別な方法によって私たちとお会いする場合には、特に言えることです。しかし、これによって、いわゆる完全とされることについての間違っただけの考え方を建て上げないように注意して下さい。神の言葉は完全に真実に基づくものであり、フリをすることほど霊的成長を妨げるものではありません。ヤコブにとって、ペニエルの経験は完全にされるための神のタッチではありませんでした。それは新しく変えられた神の経験の開始に過ぎなかったのです。「太陽は彼の上に上った」のです。

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月8日

信仰によって、ヤコブは死ぬとき、…自分の杖のかしらに寄りかかって礼拝しました。
-ヘブル11:21

新約聖書の著者がヤコブの信仰を描くとき、明らかにヤコブの弱点であるしるしを選ぶ必要があったことは衝撃的です。なぜならペヌエルの経験は、彼の生まれつきの力が奪い取られるため、彼が神のタッチによって、びっこにされる経験だったからです。そして、この場面においては、憐れみ深い神の王子として杖に寄りかかって立ちつつ、神を礼拝しているのです。

私はある日、若い兄弟と共に夕食を共にし、この生まれながらの力についての質問を受けておりました。彼は言いました、「主があなたに出会い、あなたを根底から取り扱われ、自分の力では生きられなくされることを知ることは祝福です」と。私たちの間の机の上にはビスケットが置いてありました。私はそのひとつをつまみ上げ、二つに割って口に入れる振りをしました。しかし、ふたつのかげらを再度注意深く合わせて言いました。「これ、元に戻ったかのように見えますね。しかし決して以前と同じではありません。そうでしょう？一度あなたの背骨が折られるならば、それ以後は神のささやかなタッチに対しても、容易に服することができるようになるのです」。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月9日

すべてのわざわいから私を贖われた御使い。この子どもたちを祝福してください-創
世記48:16

イサクとヤコブはクリスチャン経験の客観的な面と主観的な面を象徴しています。イサクは無代価の恵みの型であり、彼はすべてのものを受け取るだけでした。対するヤコブは、人から何も受け取ることがありませんでした。彼の性格は、それらを自分で勝ち取るために労苦する試練によって造られました。両者とも自分の子供たちを預言的に祝福しました。しかし彼らの預言はなんと異なっていたことでしょうか！イサクは自分がしていることを理解していませんでした。彼の祝福を受けた者は、その意図と逆を行ったのです。しかしヤコブは理解していました。ヨセフが間違った方を祝福していると、ヤコブを正したとき、彼は答えました。「わが子よ、私には分かっている」と。彼はそれぞれの子の名前を呼びました。彼はそれぞれの個性と将来をよく理解していました。彼は神の救いを待ち望むことの意味をよく知っていたのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月10日

五旬節の日になって、みなが一ヶ所に集まっていた。-使徒2:1

神が受肉されてその民を訪れた時、彼らの多くはイスラエルの再興を考えていました。彼らは神が動かれること、そして彼らを通して、彼らのために神が何かをなさると信じていました。そこでイエスが地上におられた間、群衆は彼に付き従いました。が、しかし「私たちはだれの元に参りましょう、永遠のいのちのことばをお持ちなのはあなたです」と告白した者たちはごく少数でした。そして再度、昇天される前に、イエスは弟子たちに対して、御父の約束を待つようにと言われました。この命令は、受難の後イエスの生きておられるのを目撃した500人以上の兄弟たちに届いたはずですが、しかしペテンテコステの時までに、神の新しい動きにあって、神と同労するために、祈りのために集まったのはたった120人だけでした。他の380人はどうしたのでしょうか？彼らは疑いなく、遅れて来たのです。なぜ、今ではないのでしょうか・・・？

実際的に言って、神は常に、より多くの民の中にあって、神の大局的御計画のために、今日と言う日に完全にご自身に従う忠実なレムナント(少数者)と共に働かれるように見えます。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月11日

民は信じた。彼らは、主がイスラエル人を顧み、その苦しみをご覧になったことを聞いて、ひざまずいて礼拝した。-出エジプト4:31

実際には、彼らの状況に何らの変化もありませんでした。彼らはただモーセとアロンによって、この400年以上の間に、神が自分たちを忘れておられないことを確証されただけでした。この確証で十分でした。彼らはひざまずいて神を礼拝したのです。

私たちは試練の中にある私たちを神が忘れられて、私たち自身の能力の中に打ち捨てられたと感じるときには、神を礼拝することは困難であると感じるのです。病気に長い間伏して、癒しを求め続けている時、あるいは何か月も失業しており、仕事を見つけることができない時、家庭内の問題が長期にわたって続く時(それでも430年になることはまずないでしょう！)、近親者が、どんなに祈っても、主を信じることを拒む時、従来の困難な問題がそのままであり続ける時などです。そのような時に、どうして神を礼拝することができるのでしょうか？私たちの口は塞がれてしまうのですーそれを見る時まで。そしてついに私たちが神の道を見出す日が来ます。その時、瞬時に神が私たちを見捨てられたのではないことを知るのです。そのようにして、沈黙させられた口は開かれるのです。また思い煩いに満ちた頭を垂れるのです。私たちはあらゆる事柄において神の恵みを認識し、神の道を崇めるのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月12日

この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。-ローマ5:5

主イエスが十字架で死なれたゆえに、私たちは諸々の罪を赦されました。主が死から復活したゆえに、私たちは新しいいのちを得ました。そして主が御父の右の座に昇られたゆえに、私たちは聖霊を受けました。すべては主のゆえにであって、私たちの何かによるものではありません。諸々の罪が除かれたのは、私の徳のゆえにではありません。ただ主の十字架刑のゆえです。再生も私たちの有益性のゆえではなく、主が復活されたゆえです。聖霊の傾注を受けたのも、私たちの長所のゆえではなく、主が昇天されたゆえです。聖霊が私やあなたに与えられたのは、神の御子が栄光の中に入られたことの証拠であり、また神聖なる神の愛のゆえであり、私たちをもそこへと導くためなのです。主の照明によって、私たちはナザレのイエスを知ることができたのです。彼は約二千年前に卑しい人々によって十字架につけられ、単なる殉教者として死なれたのではなく、私たちが栄光の中で御父の右に導くために昇天されたと知ることができたのです。ハレルヤ！

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月13日

神のことは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。-ヘブル4:12

ある神の子供たちは、真理のことは正しく認識することを強調します。確かに、御言葉自身にも、そのようにすべきことが書かれています(2テモテ2:15)、また同時に、神の言葉は私たちを刺し通すとも書かれています。私たちの誤りは、まず神の言葉によって刺し通されることを求める前に、私たちが神の言葉を把握しようとする事です！私たちは生ける神の言葉のこのような性質やその力を認識しているのでしょうか？それは両刃の剣のように鋭く、私たちを切り裂くことを知っているのでしょうか？それとも、単なる分析した学べき書物として取り扱うのでしょうか？

聖書は不思議にも、私たちが系統的かつ組織的に理解するように編まれているのではないのです。私たちは、パウロや他の著者たちが、もっと詳細なクリスチャン・ハンドブックを残してくれてたら、さぞかしよかったですら、と考えるのです。しかし神はそれを許されませんでした。神は容易に神学的な命題を定義することができたはずですが、神はあえて知的に聖書を取り扱う者たちを混乱させるかのように編まれたのです！神は私たちを単なる神学の教義を理解するだけの状態に留まらせたくはないのです。むしろ真理が彼らを確認としてとらえることを願われるのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月14日

ペテロがなおもこれらのことばを話し続けているとき、みことばに耳を傾けていたすべての人々に、聖霊がお下りになった。-使徒10:44

神はいつもペテロを遮ることが必要でした！変貌の山においても、「彼がまだ語っている時に」、御父は語り出されたのです。「これはわたしの愛する子である、彼に聞け」、と神は言われました！カペナウムの家に戻った際、宮への納入金をイエスにも払わせようとし、それを主に向かって語り出した時にも、ペテロの誤ったその考えを正すために、「イエスはまず彼に語りかけられました」。そしてここカエザリアにおいても、ペテロがまだ語っている時に、聖霊がその説教の中に超自然的に割り込まれ、それによってペテロと共にいた6人の者たちは驚きを覚えたのです。そしてペテロが語っていたエルサレムに戻るときの彼の証しについて、聖霊が追認を与えたのでした。御父、御子、そして聖霊は、それぞれのあり方で、ペテロに介入しました。私たちも同様に、私たちの語る言葉を遮るお方が神御自身であるならば、喜んでそのチェックを受けるべきなのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月15日

心の清い人々は、幸いである、／その人たちは神を見る。－マタイ5:8

ここで神はご自身の恵みの目的を成就するための心の条件を示しています。心が清いということは、神を見ることにおいて何らの妨げもないことを意味します。神の国は今ココにあります。よって、神を見損なうことは誰にもあり得ないはずですが、ただし、人が自分で妨げを置くことがない限りですが。

ある対象を見ることを妨げるために、汚れた事柄をあなたの目の前に置く必要はありません。たとえ、完全に清い事柄であったとしても、まったく同じことなのです！詩篇の作者(訳者注:ダビデのこと)が言う「清い心」とは、あらゆる汚れた事柄を取り除くことですが、ここの山上の垂訓での「清い心」とは、汚れているものも、清いものも、あらゆる事柄を取り除くことを意味します。多くの人々は正しい神の知識を知りません。なぜなら、彼らの心があまりにも生まれながらのままであり、それゆえに彼らは神から離れて、勝手にいろいろな事柄に関心をいただくのです。心の清さは見る対象が単一であることを意味します。それはただ神だけが究極的な目的であることです。そのように、ただ神によって心が占有されるときには、無意味にされるものは何ともありません。「あなたの体も光で満ちるであろう」。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月16日

主は地の果て果てまでさばき、ご自分の王に力を授け、主に油そそがれた者の角を高く上げられます。-1サムエル2:10

士師記はリバイバルの記録の書です。神の民の歴史とは繰り返される後退の歴史でもあります。神は、ここで、またあそこで、一人の人を選ばれ、回復のためのご自身の道具とされたのです。しかしこれは彼らに対する神の真の目的だったのでしょうか？私たちは今日、再度のリバイバルを必要とするのでしょうか？確かに私たちの考え方はそのような方向に走ります。しかし、神はそれを意図されるのでしょうか？それとも別のことでしょうか？

神は目は御国に置かれています。神はひとりの王のために計画されているのです。預言者サムエルは、士師たちの悲しき歴史と、ダビデによって表されている完全な満たしとの間の橋渡しとなりました。祈りの人、ダビデは、神の御計画への橋渡しとして立ちました。偉大な変化が起ころうとしていました。そして御国の到来を招きました。祈りがそのギャップのために橋渡しとなりました。ここでまたハンナの驚くべき務めがありました。彼女の状態は偶然ではありませんでした。それは神によって定められていたのです(1章5節)。それによって彼女はほとんど絶望へと追い込まれました。しかし神を視野に入れた時、その状態を最期的状況として受け入れることはありませんでした。「万軍の主よ！」と、彼女は祈りました。そしてある種の驚くべき方法によって、彼女の魂の叫びは天の関心事として、大切に育まれたのです。彼女の人生におけるもっとも尊い存在が、それらの関心事の前に捧げられました。そして時が来たとき、それは何らの悔恨の情もなく、完全に成就されたのでした。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月17日

あなたは私が着くまで七日間、そこで待たなければなりません。私があるのなすべき事を教えます。-1サムエル10:8

サウルは二つの点で試みられていました:信仰と従順です。13章のクリティカルな状況において彼の問題は、信仰によって神の時を待つことができたのか、ということでした。もしあなたがコーナーに追い詰められて、あらゆる事柄が何かをなすように告げている時、そこであなたは肉肉的であるか霊的であるかを試されるのです。「時が来るまで」。私たちは神の時が来るまで急ぎ立てられることなく待つことにより神に嘉せらえるでしょうか?

15章において再度サウルはアマレク人を完全に滅ぼすように命じられます。しかし羊の鳴き声によって、彼は道を外します。私たちが裏切るのは、しばしばかのような小さな事柄なのです。サウルは良いものと悪いものを肉的に判断しようとしました。そこで人間的に良いと思われるものを神に捧げてしまったのです。従順に勝るものはありません。しかし、なお彼は「私は主に従いました」と自己弁護しました。そうです、私たちの心は実に欺くものです。サウルのいた路線はすでに改善の余地がありませんでした。神は完全に何か新しいこと、これまでとまったく違うことを始める必要があったのです。神はご自分と同じ判断に立ち、また完全に天によって支配されている者を探しました。「もはやあなたの王国は続かない。主はご自分の心に沿う者を探し出すのだ。」

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月18日

ダビデはそこを去って、アドラムのほら穴に避難した。…こうして、約四百人の者が彼とともにいるようになった。-1サムエル22:1-2

洞穴は靈的必要に対する満たしを意味します。サウルは王の地位におり、大軍勢が彼についていました。政治的組織はすべてサウルに属しており、神はその主権において彼を認知されましたが、神がサウルと共にあることを見ることはできません。神の靈の油塗りの下にあったのはダビデでした。そして彼は神と共に荒野に出る必要があったのです。そして洞穴が彼の拠点となりました。そこで彼は疲弊した状態にある者たちの群れを見出し、彼らの指導者となるのです。彼らは絶望的な状態でアドラムの洞穴にたどり着きました。なぜなら、彼らの必要はそこにおいてのみ満たされるものだったからです。

ダビデは現在人々から拒絶されている主イエスの型です。今日においても、人々は自分の道を歩んでは疲弊し、主のうちに逃れの間を見出すのです。彼らは御靈が働かれる場を求めて探し歩いています。彼らは主の下に来るならば、主は彼らをご自身の王族の軍勢として所有されます。それは孤独な道のりです。人の手になる組織に立ち向かうことは常に孤独なことです。しかし、主が拒絶されているこの時代において、主の下に集められたその核となる人々は、主が王座に着かれるとき、主にとってきわめて尊い存在となるのです。

ウォッチマン・ニーによる靈想

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月19日

主の家で仕え、私たちの神の家の大庭で仕える者よ。-詩篇135:1-2

主の御前にて賛美することはなんという特権でしょうか！今日、私たちは常に動き回っていないとならないような印象を覚えています。私たちは静まって立ち止まることができないかのようです。あまりにも多くの事柄に心を専有されて、絶えず動き回るように操作されています。ほんの一時も立ち止まることができません。しかし霊的な人は立ち止まることを知っています。彼は神が自分にみ心を明らかにしてくださるまで、静かに神を礼拝しつつ立ち止まることができます。彼は動きを止めて、主の命を待つのです。

親愛なる同労者のみなさん、お尋ねします。あなたの仕事がすべてスケジュール通りにならないことがありますか？またはそれを達成するのに急いでいますか？しばし神の前に立ち止まって、神を礼拝する時間を持つようにしてみませんか？あなたがたはそのようなあり方をもっと学ぶ必要があるのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月20日

あなたがたの先祖たち、アブラハムとナホルとの父テラは、昔、ユーフラテス川の向こうに住んでおり、ほかの神々に仕えていた。わたしは、あなたがたの先祖アブラハムを、ユーフラテス川の向こうから連れて来て、カナンの全土を歩かせ、彼の子孫を増し、彼にイサクを与えた。-ヨシュア24:2-3

アブラハムは召されまた選ばれましたが、それはただ彼のためだけのものではなく、彼の子孫たちのためのものでもあり、彼が恵みを受けるだけでなく、それを他の人々に分かち合うためでした。彼の前にも信仰の人はおりました。たとえばアベル、エノク、またノアですが、彼らは当時の人々の中から異質な存在として、高貴な様で立ち上がったのでした。しかし彼らは、むしろ裁きのために用いられたのであり、生まれながらにそのために召されていたかのようなのでした。しかしながらアブラハムは、当初より、その時代の人々と同じ偶像礼拝者でした。彼自身、神によって召されるまで、これらの三者のように並び称されることはなかったのです。

しかしマタイ福音書は彼の名前から開始されています。あらゆる旧約聖書の名前の中で、イエスの口からすら彼の名前が語り出されています。この偶像礼拝者は数え切れない人々のための祝福の基となるために召されたのでした。すべて神が喜ばれる目的以外のための理由はありません。彼の性質そのものの中には、そのような祝福を多くの人々のためにもたらす要因はまったくくないのです。神が彼を選ばれ、導かれ、その子孫を増やされたのです。その同じ神があなたに対して同じことを成し得ないといったことがあり得るでしょうか？

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月21日

しかし、聖霊に満たされていたステパノは、天を見つめ、神の栄光と、神の右に立つておられるイエスとを見て-使徒7:55

議会に対するステパノの最初の言葉は神とその栄光から発せられました。「兄弟たち、父たちよ。聞いてください。私たちの父祖アブラハムが、・・・栄光の神が彼に現われて」と彼は語り出しました。栄光を見た者はそれに応える必要がありました。他のことは成し得ないのです。アブラハムは応答しました。その旅路における障害や失望を通して、神の栄光の幻が彼を勝利へと導いたのでした。ステパノは聴衆に対してまずこのことを思い起こさせたのです。

彼らはステパノの証しに耳を傾けました。そしてそれを拒絶したのです。すると彼自身が自分の語っているまさにその事を経験したのです！聖霊の臨在が満ち溢れました。彼はまっすぐに天を見つめ、「天が開け、神の栄光を見た」のです。かつてアブラハムに現れ、今ステパノが見ているお方は同じ神でした。神には何らの変容もありません。そしてその同じ神の栄光は依然として輝きを発し、この危機的場面の中でステパノを導いたのでした。神の栄光を見てしまった者にとって、投げつけられる石が何個であろうと、まったく問題ではなかったのです！

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月22日

都の大通りの中央を流れていた。川の両岸には、いのちの木があって、十二種の実がなり、毎月、実ができた。また、その木の葉は諸国の民をいやした。-黙示録22:2

ここにはただ一本の川があるだけです。それに対して、創世記には四本の川々があり、そのうちの二本、ヒデケルとユーフラテスは、ある日、神の民にとっての悲しみの場となりました。この一本のいのちの川は、水が満ち、御座から流れ出て、神の都を喜びで満たすのです。

またここには一本の木があります。毎月実を实らせる木です。落葉の秋もなく、不毛な冬もなく、将来の分を貯めておく必要もありません。その木によって私たちは、常に新鮮なあり方でキリストを知ることができ、その異なる諸々の実によって、キリストのある面だけではなく、その各面を味わうことができます。

川と木、キリストの充満とキリストの新鮮さ: 私たちはその方から離れては何も成し得ません。どこへ行くにせよ、私たちはそれらの要素を常に携えているのです。そしてキリストのいのちは光を与え、諸国民を癒すのです。

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月23日

どうか、あなたの光と実際を送り、私を導いてください。あなたの聖なる山、あなたのお住まいに向かってそれらが、私を連れて行きますように。-詩篇43:3

「あなたの光と真理」⁽¹⁾、これらのふたつは密接に結合されています。真理はキリストのうちに完成されています。しかし私たちの心の内にその光が照らし込まれる必要があるのです。私たちのすべての基盤はキリストのご人格の **実際** と彼の確固たるみ業に置かれているのですが、私たちはなお、神の助けによって、このことを見る必要があるのです。すすなわち、すでにキリストは統治されているのであって、これからなされるのではないという栄光の真理です。今日神が私たちのうちでなされることは既にキリストにあってなされたことです。私たちが最も必要とすることはこの事実を見せていただくことです。すべての靈的真理は永遠の真理に対して神聖な光が当てられることから生まれます。神からの光なくして説教しても、真理は単なる教義のままです。その光によってなされるのであれば、私もあなたも変えられるでしょう。その結果、それまではキリストのうちのみに見出された実際は、私たちをキリストのうちになされた神の業によって、私たちのうちにも見出すことができるようになるのです。そしてこの道は神の「聖なる山」へと私たちを導くのです。

(1)和訳では「あなたの光とまこと」と訳されていますが、この「まこと」は、むしろ「実際」あるいは「リアリティ」と訳すべきです。それは神ご自身の本質と神がキリストにあってなされたすべての靈的事実です。神の光が照射される時、それが私にとっての靈的経験となるのです。

ウォッチマン・ニーによる靈想

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月24日

私たちは、あなたの光のうちに光を見るからです。-詩篇36:9

神の光は様々な方面からもたらされます。私たちの間には真に主を知る聖徒たちを知っている者たちがいるでしょう。彼らと祈ったり、語り合ったりする際、彼らを通して輝き出る神からの光に浴し、それまでに見えなかったことを見ることでしょう。私は、今は主の元にいる、そのようなひとりの人を知っています。私は彼女のことをいつも「照らされた」クリスチャンである、と感じていました。ただ彼女の部屋に入るだけで、自分がただちに神の臨在へともたらされるのを感じるのです。若かりし時期に、私は主のために企てた多くの計画や目論見を持っていました。彼女を説得するためにこれらの事柄を持って訪ね、あれやこれやなすべきことを彼女に納得してもらおうべく努めようとしてきました。ところが私が口を開く前に、彼女はごく普通の語り方で数語を語るのです。すると光に照らされるのです！そして私は恥入り、自分のあの計画やこの行為が生まれつきの私によること、きわめて人間的なものに満ちていることが明らかになるのです。なぜなら彼女は神のためにのみ生きており、そのような人物はつねに他者をも照らす神の光に浴しているからです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月25日

主よ。立ち上がってください。あなたの安息の場所に、おはいりください。あなたと、あなたの御力の箱も。-詩篇132:8

ソロモン神殿のすべては新しく建造されました、すべてです。が、ひとつだけ例外がありました。それは契約の箱でした。新しい祭壇、新しい洗盤、新しい垂れ幕、机、燭台、新しいその他の備品。さらにはすべてが幕屋の物よりも大きくされていました。洗盤と燭台は数倍のサイズ、神殿の構造もその中の全ての物が巨大なものとなっていたのです。しかし契約の箱だけは今までどおりでした。

荒野における幕屋は、旅路にある神の民の間における神の臨在を象徴していました。大きくされた神殿は、定住した神の民の王国の中での神の臨在を表しています。そして来たるべき御国において、私たちはキリストの贖いの御業のすばらしさを、今以上に知ることができるでしょう。そうです、また、御霊に満たされることの、より偉大な経験を味わうことでしょう。しかし、それでもなお同じサイズの契約の箱は、御子のご人格における神の証しが永遠に不変であることを見るのです。それは決して拡大されることも、推敲(訂正)されることもありません。御子とそのみ業に関する私たちの把握は成長することでしょう。しかし彼ご自身は決して変わることはありません。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月26日

しかし、わたしが、それを取り巻く火の城壁となる。-ゼカリヤ2:5

啓示録の中にある偉大な都市を記述するために、ヨハネは城壁から始めています。なぜなら神のものとそうでないものを切り分けるのはその城壁だからです。城壁は安全と堅固さを象徴しています。そしてまた分離を意味します。救い出されたクリスチャンを特徴付ける大きなしるしは、まさにこの世からの分離です。サタンはそのような明確な切り分けをもっとも憎悪します。(彼は聖徒たちの間の分裂は好むのです!)エズラの時代、そしてまたネヘミヤの時代においてもまた、そのような敵の暴力的憎悪を掻き立てる城壁の再建造がなされたのです。そこで主が「わたしが城壁となる」と言ってくださるとは、なんとという慰めであることでしょうか!

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月27日

生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。-1コリント2:14

神は誤解される可能性を残すような事柄を多く語ることに、そしてそれを解説しないことを喜ばれるのです。聖書の中にはしばしば矛盾するように見えること、あるいは現実生活に対して真っ向から対立するような事柄がたくさん含まれています。が、それをそのままにしておくことを神は喜ばれるのです。私たちが説明し得ない御言葉が非常に多くあります。もし私たちが聖書を書いたとしたら、もっとわかりやすく整理して書いたことでしょう。そして人は自分の前に愚かにも神学の教義の公式を組織的に羅列したことでしょ。しかしそれによっていのちを得ることはできるでしょうか？

永遠の全能なる真理の神は、生まれながらの人(訳注:原語は「魂的な人」)がそれらを容易に把握し得ないように、聖書の中に真理を散りばめられたのです。神は賢い人ではなく、赤子がそれらを把握することができるように隠されたのです。赤子は霊的に識別する者です。聖書は学習のテキストブックではありません。それは私たちの日々の御霊による生のための養分を提供するものであり、私たちに語りかけるものとして備えられたのです。聖書はいのちの書である故に、私たちがそれを経験的に知ることができるように編まれた書なのです。もし組織神学によって神を知ろうとするのであれば、完全に誤った道へと迷い込むことでしょう。

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月28日

お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。-エペソ4:32

あなたが兄弟を赦すのであれば、その表現がどのようなものであれ、赦しの実際は御体に対していのちを供給することです。真に兄弟を愛するのであれば、その愛し方がどのようなものを告げなくとも、その愛は御体を建て上げるのです。私自身、英国におけるある大きな聖会の際に、スピーカーのひとりとして日本の兄弟がメッセージすることになっていたプラットホームに立ちました。私たちはそれまで会ったこともありませんし、その当時両国は戦争状態にあったのです。私は彼が何を感じたのかは分かりませんが、彼とほんのわずかの会話の時間が与えられました。その時、私は彼を通して主にある愛と交わりを感じる事ができたのです。その愛は国籍の壁を超えており、そのことを言葉にする必要性もないものでした。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月29日

あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思うので、聖書を調べています。その聖書が、わたしについて証言しているのです。-ヨハネ5:39

旧約聖書の中には、律法と詩歌と預言があるだけでなく、キリストがおられるのです。しかしどのようにしてその方はおられるのでしょうか？私たちは旧約聖書の中に、キリストの型とキリストの預言とメシアの賛美を見るのです。しかしその方は単に書かれているだけの方でしょうか？それともそれ以上の方でしょうか？

イエスは、アブラハムがキリストの到来の日を見ること、そしてそれが訪れたことを喜んだ、と証しされています(ヨハネ8:56)。モーセはその微妙な決断の際、キリストのゆえにエジプトの富を捨てたとあります(ヘブル11:23以降)。またダビデのため息と嘆願と賛美を読むとき、私たちは言うでしょう、「それはダビデだ！」と。いえ、違います。それはキリストなのです。なぜならダビデは、自分の経験を書き記す際、「キリストの復活について語った」からです(使徒2:25以降)。またイザヤは自分に与えられた情報を提示したのみでなく、キリストの栄光を見、またキリストについて語ったのです(ヨハネ12:41)。神とその僕を切り離すことはできません。彼らのうちにあるキリストのいのちは、彼らにある種の経験をくぐらせ、それを彼らは記録したのです。何世紀にもわたり、これらの人々において、キリストはご自身を表すために、彼らのうちで生きておられたのです。その記録の集大成が、「彼ご自身について証しする」神の言葉です。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月30日

彼女が答えた。「私はナホルの妻ミルカの子ベトエルの娘です。」・・・そこでその人は、ひざまずき、主を礼拝して-創世記24:24以降

神を礼拝するとはいかなる意味か、お分かりでしょうか？主に助けを求めたにもかかわらず困難な問題に直面するとき、願い求めても事態が悪化するとき、あなたはただ自分の歩みに備えられた豊かさに与って喜ぶことができますか？それともさらに悪いことには、自分の何かの能力によるか、あるいはなりゆきでその問題の解決をはかるでしょうか？アブラハムのしもべはそうではありませんでした。彼は事態が自分にとって好都合になることを歓迎したわけではありません。彼はまたレベカと話すことをやめたのではありません。ためらいも困惑も感じることなく、ただ彼は頭をたれて、自らの口をもってこう語ったのです、「主がほめ称えられますように！」と。彼のその即座の行動は主のみわざをあがめるものであり、すべてのめぐりくる事態の曲がり角において、彼はそのようにしたのでした。真の礼拝者になることは、すべての遭遇する事態において、即座に神に対して賛美と感謝を捧げ、神に栄光をもたらすことなのです。なぜなら神は、ご自身が願われる礼拝を私たちが捧げることができるように、私たちのあらゆる道を備えられる方だからです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(8月)

＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

8月31日

イエスは彼らに言われた。「モーセは、あなたがたの心がたかくななので、その妻を離別することをあなたがたに許したのです。しかし、初めからそうだったのではありません。-マタイ19:8

神が結ばれたものを分離することは出来ないことに関するイエスの教えと、モーセの離婚に関する規定の間に食い違いがあるとパリサイ人には見えました。表面的にはそれは確かに食い違いですが、しかし神には揺るぎがありません。それは神があたかも気まぐれなお方であり、最初禁じられたことが後に神の目に許されるようになり、また後になって禁じられるようになったのではありません。違います、イエスは言っています、「最初からそうだったのではありません」と。彼は表面的なことによらず、神のみ旨は一貫していることを主張されました。それは決して変えられていません。ここに最も大切な原則があります。私たちが知るべきことは、神の許しではなく、神のご指示です。私たちは自分に対して、最初の神のみ心は何か、と問う必要があるのです。私たちは物事を、すべては神の思いに従って清めの中で進展したことを認めるであり、神の民の心の頑なさのゆえ彼らのあり様を認めるべきではないのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想